

指導医と受診者が
ディスプレイ画面
をのぞきながら相
談

酒・タバコやめれば…



コンピューターシステム開発

生活習慣の
改善を指導

将来の健康「危険度」予測



健康診断のデータを元に受診者の現在の健康状態だけでなく、将来の健康の「危険度」を予測するコンピューターシステムの開発が進んでいる。食生活や喫煙の有無など受診者の生活習慣を踏まえて予測するのがポイントで、受診者は健康改善のため日常生活をこの程度はよいかを具体的に知ることができ、喫煙所や会館での利用も始まっている。

日本経済新聞(夕刊)

1988年(平成8年)9月21日(土曜日)

「ライフスタイル変えれば1年後には…」示す



コンピューターの画面に示される、ライフスタイルを修正した場合の1年後の予測値について説明する高橋英孝医師

中性脂肪、血圧など10項目
受診者のやる気ねらい

検査値予測システム

健康診断の検査結果をもとに、ライフスタイルをどう修正するか受診者自身が決め、それによって改善される1年後の検査値を、コンピューターを使って予測する「検査値予測システム」を、聖マリアンナ医科大学公衆衛生学教室（吉田勝美主任教授）助手、高橋英孝（えいこう）医師が開発した。アメリカで提唱された健康危険度予測（HRA）を日本の実情にあわせたもの。受診者にライフスタイルを改善する気（き）を起（おこ）させるのがねらいで、病（びょう）気（き）予（よ）防（ぼう）の効果が期待される。

（寺田理恵）

ドック受診者 1 年後の健康
パソコンで危険度予測

中性脂肪、空腹時血糖など10項目
納得いく改善策設定



人間ドックで成人病予防の必要性を指摘された受診者の、一年後の健康危険度をパソコンで予測するシステムが開発され、成果を上げている。この危険度予測をもとに納得がいく生活改善策が立てられるため、受診者には好評で、今後普及が期待される。

(高野雄雄記者)

健康危険度予測システムで使われる「項目の生活習慣分類表」

[illegible]